

令和7年度 徳島県小・中学校教育課程研究集会 (小学校音楽部会)

令和7年7月25日(金)

徳島県教育委員会

本日の日程

13:30～14:20	開会・イントロダクション 部会Ⅰ（説明）
14:20～14:30	休憩
14:40～15:40	部会Ⅱ（協議・全体共有） まとめ
15:40～16:00	リフレクション・閉会

イントロダクション

音楽科の授業実践で御自身が現在、課題に感じていることは、どのようなことですか？

主要内容

資質・能力の育成の観点から

授業改善

1. 題材構想の捉えについて

【Point】

- ・ 学習課題の設定
- ・ 児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
- ・ 「学習内容」と「学習活動」の精選

2. ICTの活用について

指導要領 p. 1 1 4

表現及び鑑賞の活動を通して、**音楽的な見方・考え方**を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



(1)～(3)の実現により、この資質・能力が育成される

- (1) **曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する**とともに、**表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける**ようにする。(知識及び技能)
- (2) **音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴く**ことができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。
(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領では、学年の目標及び内容を〔第1学年及び第2学年〕（低学年）、〔第3学年及び第4学年〕（中学年）、〔第5学年及び第6学年〕（高学年）のように2学年にまとめて示している。

これは、表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより、音楽科で育成を目指す資質・能力が徐々に身に付いていくという、音楽科の学習の特質を考慮したものである。さらに、児童や学校の実態等に応じた弾力的な指導を効果的に進めることができるようにしたものである。

第1学年及び第2学年 A表現 (1) 歌唱

- ア 歌唱表現について知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
- イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。
- ウ 思いにあった表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。
 - （ア）範唱を聴いて歌ったり、階名で歌唱したり暗唱したりする技能
 - （イ）自分の歌声及び発声に気を付けて歌う技能
 - （ウ）互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

第1学年及び第2学年 A表現 (1) 歌唱

- ア** 歌唱表現について知識や技能を得たり生かしたりしながら、思いを込めて表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
- イ** 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や人物について気付くこと。
- ウ** 思いにあった表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。
- （ア） 範唱を聴いて歌ったり、階名で歌唱したり暗唱したりする技能
 - （イ） 自分の歌声及び発声に気を付けて歌う技能
 - （ウ） 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

思考力、判断力、
表現力等

知識

技能

題材構想の考え方

1. 題材構想の捉えについて

資質・能力	知識及び技能		思考力、 判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
表現	イ	ウ	ア	*
鑑賞	イ	ー	ア	
〔共通事項〕	イ	ー	ア	

題材構想の考え方

1. 題材構想の捉えについて

資質・能力	知識及び技能		思考力、 判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
表現	イ	ウ	ア	*
鑑賞	イ	ー	ア	
〔共通事項〕	イ	ー	ア	

音楽づくりにおける資質・能力の関連付け

(ア)	ア 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。
	イ いろいろな音の響きやそれらの組合わせの特徴
	ウ 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能
(イ)	ア 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
	イ 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
	ウ 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

(ア) は、即興的に表現する活動

(イ) は、音を音楽へと構成する活動

指導事項を統一する

学習課題の設定

- 目標⇔内容⇔指導⇔評価の整合性がとれているか
- 児童が取り組んでみたいと思うような魅力的な課題の工夫や「自分事」として捉えることができるような課題設定の工夫（他教科や生活経験、これまでの音楽経験とのつながり、次の題材や領域・分野との関わり）
- 知識や技能と関わらせながら思考・判断する必要がある課題

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

- 音楽を形づくっている要素自体の理解 → 解説書p. 135～138
- 一題材において、思考・判断のよりどころとして貫くもの
→領域・分野を関連付けた題材構想の場合、領域・分野、若しくは教材によって異なるものではない。
- 思考・判断のよりどころとなる「主な」を設定する
→焦点化
- 年間指導計画でのバランスや児童の実態に応じた要素の設定

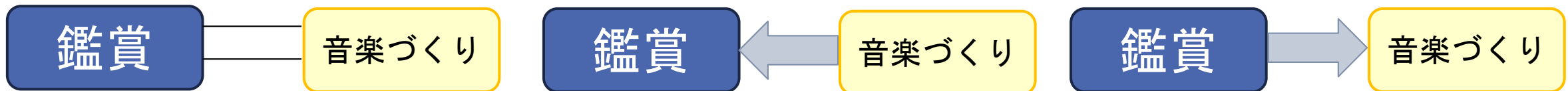
「学習内容」と「学習活動」の精選

□題材でどこを中心と据えるか

□学習内容＝指導事項→評価が伴う

児童がどのような力をつけるのか、何ができるようになるのか。

□題材構想の捉えの例



□学習内容 「～に気付く」「～理解する」「～捉える」「～工夫する」
「～味わう」等

□学習活動 「～歌う」「～演奏する」「～聴く」「～話し合う」「～記述する」
等

指導と評価の一体化

1. 題材構想の捉えについて

育成を目指す資質・能力

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

評価の観点

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む
態度

評
定

個人内評価

音楽科では特に
大切にしたい

徳島 ICT活用モデル

～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて～



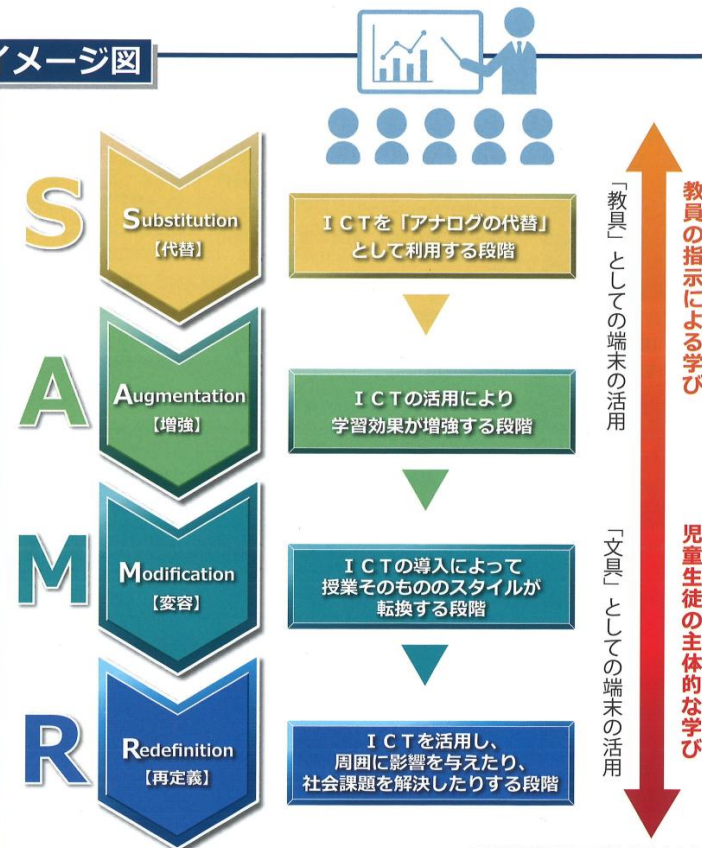
徳島県教育委員会
令和6年3月



徳島ICT活用モデル

「徳島ICT活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXによる学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。
ICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。

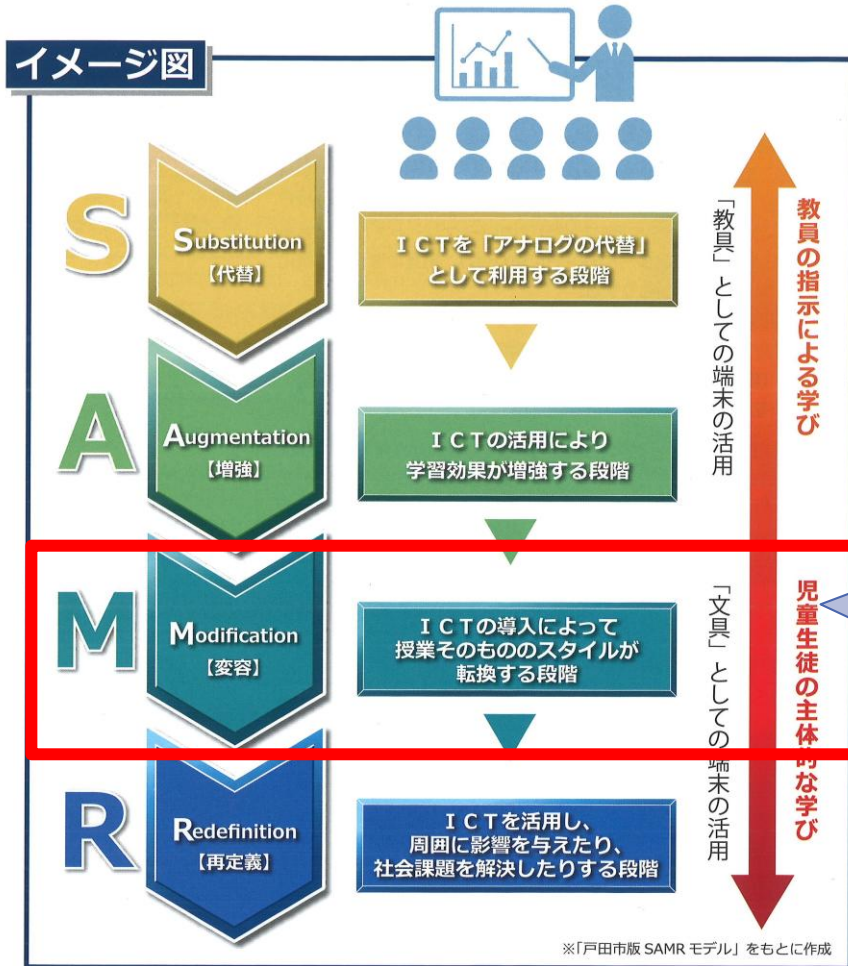
イメージ図



※「戸田市版 SAMR モデル」をもとに作成

徳島ICT活用モデル

「徳島ICT活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXによる学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。
ICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。



2. ICTの活用について

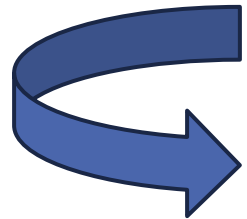
Modification【変容】

ICTの導入によって授業そのもののスタイルが転換する

- ロイロノートを活用して自宅で反転学習を行い、学校では対話や協働作業などの活動を行う。
- オンラインで専門家とつながり、活動への助言をもらう。
- 遠隔地の学校とオンラインでつなぎ、相互に学ぶ。
- Microsoft Formsを利用し、アンケートをとって分析する。

音楽科授業における効果的なICTの活用とは

- ・ 児童が音楽に対する**感性を働かせやすい**環境の設定ができる
- ・ 音や音楽を、**音楽を形づくっている要素の働きの視点**で捉えることができる
- ・ 捉えたことと自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと**関連付け**たりできる



- ・ 「聴き取ったこと（知覚）」と「感じ取ったこと（感受）」の関わりを深める
- ・ 思いをもつ
- ・ 技能の習得や表現の創意工夫を高める
- ・ 音楽づくり→思いをかたちに

【表現】

- ・ 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、表したい音楽表現の見通しをもったり、技能の習得過程を確認したりする。
- ・ 音を可視化するソフトを利用して、音高や音量、アーティキュレーションなどを確認し、表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・ インターネットを活用して、曲の背景などについての知識を得ながら、歌唱・器楽で表現するための表現意図を深める。
- ・ 音楽制作ソフトなどを活用して、音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり、音色を様々に変化させながら、表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・ つくった音楽を再生して音で確認しながら、創作表現を工夫したり、ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら、つくった作品を修正したり、さらに工夫を重ねたりする。

【鑑賞】

- ・ クラウドに保存された演奏の音源や画像を、自分が視聴したい部分を取り出して繰り返し聴きながら、音楽を形づくっている要素やその働きの感受を深める。
- ・ 作品の背景となる文化・歴史、他の芸術との関わりについて考える際に必要な情報をインターネットで検索し、作品に対する理解を深める。
- ・ 同じ作品を異なる楽器や異なる演奏家による演奏で聴き比べ、音楽表現の共通性や固有性について考えながら、よさや美しさを味わって聴く活動につなげる。

文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

> サイトマップ > English 文字サイズの変更 大 Google Custom Search 検索

会見・報道・お知らせ | 政策・審議会 | 白書・統計・出版物 | 申請・手続き | 文部科学省の紹介

生きる力
学びの、その先へ

GIGAスクール構想の実現
「学校におけるICT活用」の推進

リーディング
DXスクール

学校DX戦略アドバイザー事業
ポータルサイト

みるみる
学校DX戦略アドバイザー事業

GIGA StuDx
メールマガジン

全国の校務DX
ポータルサイト

校務DXの取組に関する
ダッシュボード (デジタル庁)

高等学校DX加速化推進事業
(DXハイスクール)

e-portfolio
ポータルサイト

小学校を中心とした
プログラミング教育ポータル

STEAM
Library

未来の教室

スタディーエックス スタイル

StuDx Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

8/7 こどもが関見学デー申込

ブテ学習会はコテラ

お困り相談はコテラ

研修支援はコテラ

新着情報・トピックス

1. 各教科等における
深い学びの実践

※高等学校に関する深い学びの実践事例については、
現在、公開に向けて準備中です。

各教科等
での活用

慣れる
つながる
活用

STEAM教育等の
教科等横断的な
学習

小学校

国語 社会 算数 理科 生活 音楽 図画工作 家庭 体育 外国語活動
外国語 特別の教科
道徳 総合的な
学習の時間 特別活動

中学校

国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語 特別の教科
道徳 総合的な
学習の時間 特別活動

【事例】

第3学年「こんにちは リコーダー」

https://www.mext.go.jp/StuDXStyle/20250620-mxt_kyoiku01-000015485_1.pdf

【事例】

第4学年「音色や速度のとくちょうを感じ取ろう」

https://www.mext.go.jp/StuDXStyle/20250620-mxt_kyoiku01-000015485_2.pdf

【事例】

第5学年「曲想を感じ取って表現に生かそう」

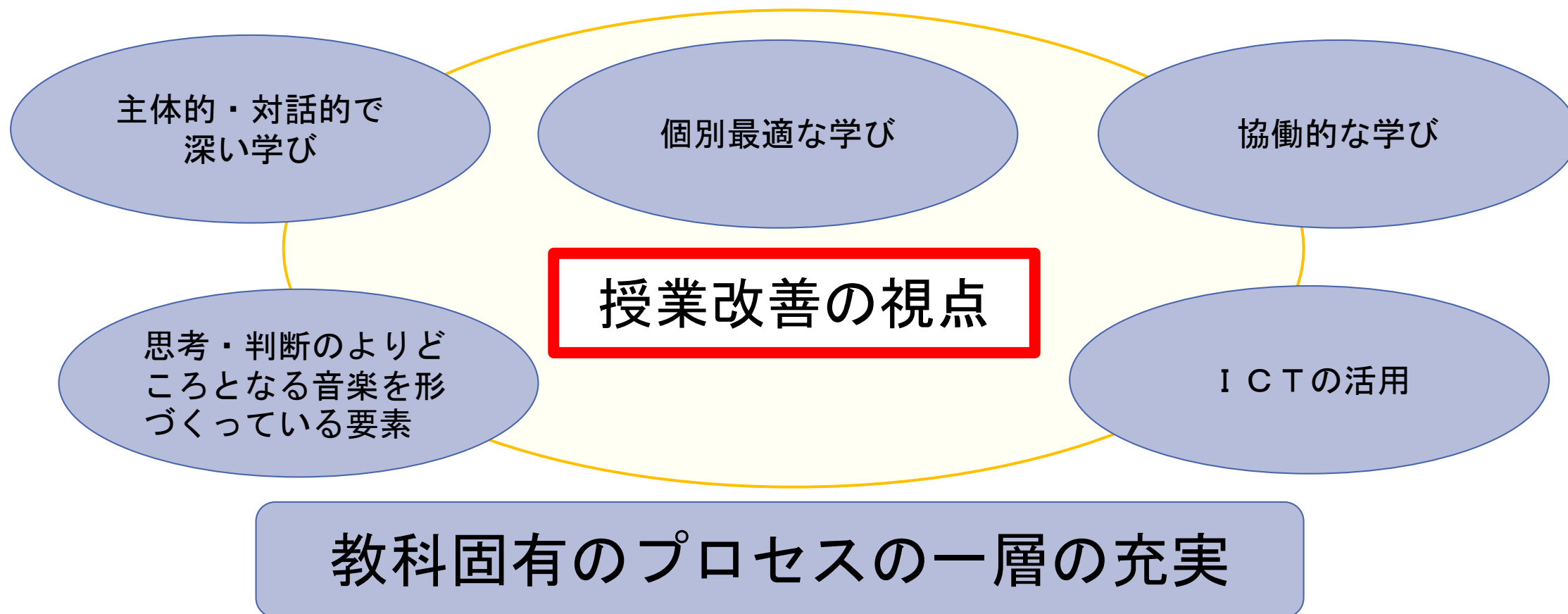
https://www.mext.go.jp/StuDXStyle/20250620-mxt_kyoiku01-000015485_3.pdf

- ・ 読譜補助の活用
- ・ 音の可視化
- ・ 代替楽器としての活用
- ・ お手本動画やコンテンツ、映像資料
- ・ デジタル教科書等の活用
- ・ 録画や録音機能の活用
- ・ インターネットによる調べ学習での活用
- ・ 思考ツールの活用
- ・ クラウド音源の活用
- ・ アンケートフォームを用いての導入や振り返り

資質・能力の育成の観点から

1. 題材構想の捉えについて

2. ICTの活用について



資質・能力の育成の観点から

まとめ

教科固有のプロセス

解説書 より

我が国や諸外国の様々な音楽を教材として扱い、児童一人一人の個性や興味・関心を生かした楽しい音楽活動を展開する。

p. 1 0

思いを基に、実際に歌って（演奏して）確かめていく過程を多く取り入れるようにする。

p. 3 1、3 7

旋律を口ずさんだり、音楽に合わせて体を動かしたりするなどの活動を効果的に取り入れて、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音楽を全体にわたって味わって聴く楽しさを感じ取れるようにする。

p. 4 9

児童が初期に抱いた、例えば「この曲は面白い」などの曲の印象を起点として、アの事項とイの事項との関連を図った学習を通して、聴き深めていく。

p. 7 9